様式第２号－1

事業計画書(その１)

①団体の目的　＊定款，規約，会則等に定めている目的を，そのまま転記してください。

この法人は、皆がふつうに暮らせる街づくりの一環として年齢・性別・所属などを問わない居場所と学び場に関する事業を行い、地域住民が学び、助け合いながら高い美的情操と豊かな人間性を養う事を目的とする。

②事業の分野

□保健，医療又は福祉の増進　□社会教育の推進　□まちづくりの推進
□観光の振興　□農山漁村又は中山間地域の振興　□学術，文化，芸術又はスポーツの振興
□環境の保全　□災害救援　□地域安全　□人権の擁護又は平和の推進　□国際協力
□男女共同参画社会の形成の促進　□子どもの健全育成　□情報化社会の発展
□科学技術及び学術の推進　□経済活動の活性化　□職業能力の開発及び雇用機会の創出
□消費者保護　□団体の運営又は活動に関する連絡，助言又は援助

③事業の概要　＊事業の全体像を簡潔に記入してください。

ひきこもりの子どもを持つ親向けの親子関係講座を開催する。
同時にひきこもりの本人（若者～大人）の居場所作りも行う。

④社会的背景と解決しなければならない課題

＊提案するに至った社会的背景や市民ニーズ等は何ですか。また解決しなければならない課題は何ですか。

厚労省のデータで引きこもり世帯約 26 万世帯（H18 年）内閣府関係調査では広義のひきこもり状態69.6万人狭義のひきこもり状態23.6万人（H22年)。
近年は大人の引きこもり問題が表面化してきている。社会に出たあとでうまく適応できずにひきこもりとなるケースが多く、平均30歳、期間10年など長期化・高齢化のデータもある。地域や家庭で考えると、親の負担が大きく相談できる場所も限られ地域での孤立が進む。親から子どもとの関わり方などの相談が増えている現状があるが、倉敷市にはひきこもり地域センターがないなど、大人のひきこもり支援が充分とはいえない課題がある。悩みの共有だけでなく、一歩踏み込んだ自立に向けた支援体制が必要だと強く実感する。

⑤受益者の範囲　＊提案する事業の対象範囲を具体的に記入してください。

ひきこもりの若者～大人とその親。関わり方に関心のある方

⑥事業の成果　＊④の課題に対して，事業を実施することで得られる成果とは何ですか。

・親が子どもとの関わり方を学び直したり、共通の悩みを持つ同士交流することで負担感が減る。
・親が変わることで子どもへの変化が期待でき、外に出るきっかけになる。
・周囲の者も関わり方を学ぶ事により地域で支える体制の基盤ができる。

⑦事業の目標

＊⑥の成果を測る目安です。想定する結果より少し高いレベルで設定してください。また，目標の進捗状況を市の指定するブログに定期的に投稿していただきます。できるだけ数値やパーセントを用いてください。

・講座参加者の８０％が継続的な講座受講の意思を示す事（今回の事業は導入講座のため）→満足度へつながる指針となる
・講座参加者の子どもの２０％が居場所作りへ参加する。

事業計画書(その２)

⑧事業の詳細

＊実施時期，場所，対象者，内容，特徴や重点事項など，できるだけ内容を明確にしてください。

【親子関係講座～導入編～】
・場所：倉敷市笹沖の当法人のサロンスペース
　　　　くらしき健康福祉プラザ
・講座開催時期：　７月～翌１月（月２回）
　　　　　　　　　基本は３回（内容①～③）で１セット

・ゲスト講演＆相談会　７月～翌１月まで間に計３回
　　　　　　　（予定講師：精神科医・精神保健福祉士・臨床心理士）

・対象者：ひきこもりの子どもを持つ親。当事者への関わり方に関心がある方

・内容　①（自己覚知と今までの関わり方・色彩心理）
　　　　②（親から子へのコミュケーションの取り方）
　　　　③（ワークショップぬりえ。はじめの第一歩）
　　＜①からの参加でなくとも途中からや単発の参加も対応できる内容とする＞

【居場所作り】
・場所：倉敷市笹沖、当法人のサロンスペース
・時期：秋10月～毎月２回「ぬりえカフェ」開催
・対象者ひきこもりの本人（１０代～）

・内容　安心できる場所だと認識してもらう事が目的なので
　　　　基本はフリーに過ごしてもらう。
　　　　スタッフがつき、話し相手・相談相手になる。
　　　　興味があればぬりえに着手し、当事者同士の交流も可能な範囲で行う。
　　　　お昼時間も挟んで、昼食時間も共にする

＜重点事項＞
ぬりえによる色彩心理を使い、心の状態を把握したり変化も見ることができる。また、親子でぬりえに携わる事で共通の作業も可能になり親子関係再構築のきっかけを促す側面もある。

⑨受益者負担　**※団体の財源確保のため，可能な限り参加費等を徴収してください。**

＊参加費や受講料を一般の参加者から徴収しますか。該当するものを丸で囲んでください。

（徴収する）・　徴収しない

講座：受講料・お茶・お菓子代として１回1,000円を徴収する

居場所：無料

事業計画書(その３)

⑩事業の見通し　＊２年後，３年後といった将来，事業をどのように展開させていきますか。

他団体へ出かけていき関係作りを行い、必要であれば連携も行う
→アウトリーチなど行い、外出が難しい当事者へ働きかける仕組みを作る
→親子での講座受講をめざす。→コミュケーション教室の受講もめざす

⑪団体の能力の活用

＊団体の持つ能力や特色を，課題の解決にどう活かしていきますか。

約１０年間個人で相談業務･コミュニケーション教室などを行いながら築いてきた交流関係がベースとなり、法人化して以降は精神福祉・病院勤務・相談員など保健福祉に携わる会員が増えている。現在は居場所事業や各種講座を行いながら発達障がい・ひきこもりの子どもを持つ親を含む相談対応を行い、医療機関・児童家庭支援センターと連携対応も行っている。

コミュニケーション教室対人関係に関する講座作りのノウハウもあり､子どもへの支援実績をベースに若者から大人の家族への支援だけでなく本人への支援にもつなげていくことが可能である。

⑫他団体等との協力

＊他団体等と協力して事業を行う場合は，その団体名や役割を記入してください。

・社協、保健所などへチラシ設置予定

⑬行政との協働　**※自主事業部門の団体は記入不要**

主となる部署名（　　　　　　　　　　）　主部署の同意（ あり ・ なし ）
その他の部署名（　　　　　　　　　　，　　　　　　　　　　）

協働する部署との協議

月　　日（内容：　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
月　　日（内容：　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
月　　日（内容：　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

協働する部署の役割

予算書

（収入の部）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（単位：円）

項　　目	金　額	内　　　容
受益者負担 （参加費，受講料など）	56,000	@1,000×56 名
会費からの繰入金	21,000	
そ の 他		
市補助金	300,000	
合　　計	377,000	

（支出の部）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（単位：円）

区分	項　　目	金　額	内　　　容
経費①（対象経費）	人件費（団体会員に支払うもの，交通費を含む）	33,000	講座講師（団体会員）料
	人件費（団体外部に支払うアルバイト代等）	72,000	@900×4H×2 名×10 回
	謝　金（講師等に支払うもの）	60,000	@20,000×3 名
	旅費交通費（講師等に支払うもの）	3,000	片道(15km、20km、10km)×往復×@25 円
	消耗品費	65,000	事務用品、会場掃除用具、画材、インク代等
	印刷製本費	80,000	ﾁﾗｼｶﾗｰ 30,000 ﾃｷｽﾄ作成 50,000
	通信運搬費	25,000	案内発送、受講案内発送@82×250 @120×30
	保険料		
	使用料，賃借料		
	委託料		
	小計　①	338,000	
経費②（対象外経費）	報償費・人件費	22,000	講座講師料（団体会員）
	食糧費	17,000	飲料代・茶菓子・軽食代@500×14@1000×10
	その他		
	小計　②	39,000	
合　計		377,000	

（記入上の注意）

※　団体会員に人件費及び交通費を支払う場合は，申込み前に事務局に相談してください。

※　実施可能な経費，内容に見合う経費で計画してください。過大な経費は避けてください。

※　内容欄には，単価・数量等の内訳を記入してください。（別紙添付も可）

※　事業実施のために直接必要な経費だけ計上してください。団体の運営経費は対象外です。

※　**金額欄は切り上げて千円単位**で記入してください。